

☎テレホン法話(0577)(34)

2313

○9月21日30日：白川明子氏「教務所」○10月1日10日：廣田令寿氏「恵林寺」

○10月11日20日：阿多野美恵子氏「大谷婦人会」

◆宗教トラフル相談窓口(0577)3210763

わたしたちの日本は今、東日本大震災と原発事故という未曾有の危機を迎えています。私は一昨年に出版した『肩の荷』をおろして生きる(PHP新書)で、日本はいま三番目の敗戦を経験していると主張しました。一番目の敗戦は第二次世界大戦で軍事的に負けた。その後奇跡的な復興を成し遂げたものの、バブルがはじけて今度は経済的な第二の敗戦です。しかし、ますます経済第一に、金さえ儲ければいいという方向に舵を切って第三の敗戦を迎えています。それは信頼や安心の喪失です。経済的不況だけでなく、こころが追い込まれていきます。しかし私は、その中

で仏教が果たせる大きな役割があると思うのです。私が教えている東京工業大学で二〇〇六年に「人間が使い捨てだと思う人、手を挙げて」と聞いたら半分の学生が手をあげました。衝撃でした。自分が使い捨てとは思えない人の自己信頼感の無さ。自分を大切にできない人は他人を大切にできません。年長世代は人に信頼があるというのを知っています。しかし今や信頼は失われ、人は使い捨てだという。それに對して、どのような復興の道があるのでしょうか。わたしの教え子の女子学生の話を紹介しましょう。

二十歳くらいの時に人生に悔い、ある日、真夜中に家を出してしまっ

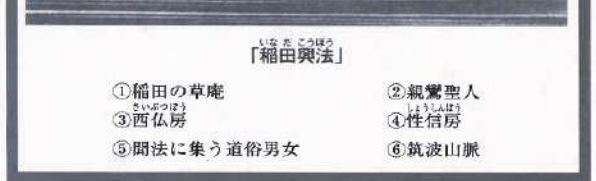
ていたら重い胸の重しのようなものがスーッと取れていき、「今日は家に帰ろう」と思いつて帰った。その後なぜか人生が好転していつて二度と家出をすることなく、幸せになつていったそうなんです。だれも彼女の話を聞いていないのに彼女が言うには、「夜中の二時三時にも扉が開いて、誰かが出てきてくれるんじゃないか。そしたらすごく気が楽になった。そして、まだいま泣き叫ぶ時期ではない。もう一段階悪くなったところへ戻ってきた泣き叫ばないと思つた。そしたらとても楽になった」と。つまり彼女はこの社会には支えの場があるということを実感したのです。すると毎日ものがすごく自由になった。

支えと自由というのはコインの裏表なのです。全国に七六〇〇ヶ寺。コンビニの二倍もあるお寺が、ほんとうに日本人の支えになったならば、日本はどんなに幸せで豊かな国になることでしょうか。その願いから私は「がんばれ仏教!」とお寺ルネサンスの時代(NHKブックス)を書き、素晴らしい活動をしているお寺や僧侶を紹介し、「もつとお寺に期待しよう!」と呼びかけました。またダライ

念じられ 照らされて



た。そうしたらそこにお寺があった。「もしかし



「稲田興法」

①稲田の草庵 ②親鸞聖人 ③西仏房 ④性信房 ⑤閑法に集う道俗男女 ⑥筑波山脈

絵解親鸞聖人絵巻25

親鸞聖人絵巻下巻第二段「稲田興法」

一二四(建保二)年、四十二歳の聖人は恵信尼と子どもたちを連れ、関東へ向け旅立たれました。その理由は諸説あり、恵信尼の実家三善家の縁があったとか、同じ法然門下の宇都宮氏を頼ったとか、また、著書「教行信証」を書くための史料を求めたなどです。上野国(群馬県)、下野国(栃木県)を経て、常陸国(茨城県)の下妻小島に三年間、その後笠間郡稲田に十年間、草庵を構え本願念仏の教えを勧められました。稲田の草庵には、常陸国はもろろん、下野国、下総国(千葉県)、武蔵国(東京都)などから、武士、農民、漁師、商人、老若男女を問わず多くの人びとが参集し本願念仏の教えを聞きました。

聖人は稲田の草庵から東方の筑波山を眺めながら、二十九歳の時、京都六角堂で「本願念仏の教えを宣説することによって、東方の峨々たる岳山に人びとが群集する(御伝鈔)」夢を見たことが思い返されました。そしてあの時の夢は真宗繁盛、念仏興法を示していたのだと領解されました。

ひだご坊

No.278

2012年9月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所
 発行者 大町 慶 幸
 〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
 ☎(0577)32-0776
 *毎月20日発行 50,000部
 三市一郡無料配布
 印刷 山都印刷株式会社

ラマと対話を行った「目覚めよ仏教」ダライ・ラマとの対話(NHKブックス)の中でダライ・ラマは「世界の不正に對しては、慈悲から生じる怒りをもつて、しっかりと正していくのが仏教徒の使命だ」とおっしゃっています。そして若手のお坊さんたちが宗派を超えてお寺のあり方、未来を議論する、その名も「ボーズ・ビー・アンビシャス」という催しも主催しています。そこにはヤル気のある若手僧侶が集まってきて、熱い議論を繰り広げています。仏教は過去のものではありません。今まさに仏教の出番だ。心からそう思うのです。

私は平成十八年に住職拝命し、今年で六年目になります。前住職の父が急死したため、京都山科にある大谷専修学院に一年間お世話になる事になりました。全寮制である専修学院での生活は、この現代社会では必要不可欠ともいえる携帯電話は禁止。テレビも無く、ある意味では俗世間から一歩離れた場で集中して仏教を学べる場でもありました。

しかしながら、その頃の私は、「今はこうして毎日ずっと仏教の事を考えたり勉強をさせてもらえる毎日だが、この学院を卒業して地元に戻った時、はたして仕事と住職の両立ができるのだろうか。仕事の忙しさに住職と

住職の言葉
 私法で法を説く
 朝日高根組 正賢寺
 岩崎 正親

しての立場を忘れてしまい、寺の事が疎かになってしまふのではないかと、そんな不安な想いでいっぱいでした。そんな私に、担任であった若い先生が言ってくれた言葉が今でも脳裏から離れません。

「君は住職や念仏者はこうでなければならぬ、こうあらねばならないという事柄に囚われすぎている。我々仏門に携わる者は仏や神ではない。何ら変わりない一人の人間だ。」

という言葉でした。

そして卒業の日の最後に「君は私法で法を説く、そんな住職になつて下さい。」という言葉を言われました。

いつしか住職という念仏者としての生き方を絶対的な立場、禁欲を権威と一緒に纏つていってと錯覚してしまつていたこの私。

私はあの先生の言葉を改めて自分の心に問いかけ、本当の念仏者としての道を探求していきたい、そう思う今日この頃であります。

南無阿彌陀仏

「昨年の十二月一日の御文、同二十日あまりに、たしかに見候いぬ。何よりも、殿の御往生、中々、はじめて申すにおよばず候う。」

「惠信尼消息」(第三通)は、親鸞聖人の御命終を告げた覚信尼からの書状に、このように応えて始まっている。「教行信証」西本願寺本の古写本の識語によると、御入滅は十一月二十八日未時(午後二時)、東山への葬送は翌二十九日戌時(午後八時頃)、収骨は三十日であった。「御伝鈔」では、「洛陽東山の西の麓、鳥部野の南の辺、延仁寺に葬したてまつる。遺骨を拾いて、同山の麓、鳥部野の北、大谷にこれをおさめたてまつりおわりぬ」と記し、この最初の墓地である大谷は、今の

大谷祖廟付近ではないかとされている。また延仁寺とは、寺院ではなく、畿内の大きな火葬場である五つの三昧所の一つである。覚信尼は、その収骨を終えた翌十二月一日付けで、父親の命終の知らせを手紙にしたためて、越後の母惠信尼に宛てて送り、十二月二十日頃にその告げが惠信尼の元に到着したことがわかる。

ところが、十二月二十日に届いたこの書状に対する惠信尼の返信は、五十日後の翌年一二三(弘長三)年二月十日付けであり、しかも長短合わせて四通もの書状が返ってきた。しかも期待とは反して、

『惠信尼消息』 から見える親鸞像 告げと返信

井上 大

にもわたらせ給え、疑い思いまいらせぬ」と結んでいく言葉にあるように、覚信尼の書状の中で、親鸞の臨終の様子に、その往生を疑うような言葉があったからではないかと推察されている。覚信尼は、親鸞が、法然の臨終の奇蹟を収集して『西方指南鈔』にまとめた時、側近にいた。このために当然父親の臨終にも、同じような奇蹟があるはずであると期待していた。しかし期待とは反して、

変わった様子のない臨終であった。そんな疑いが書状に書かれてあったのではないかと、どう思える。その覚信尼の疑いにどう応えたらいいのか、それが四通という分量になった理由である。

四通の書状の内容は、第三通が建仁の六角堂参籠から吉水入室へと、建保の年の下妻で自らが見た夢告の二つをまとめ、第四通がこの書状類への注意を示し、第五通が建保の佐賀での三部経千部読誦と寛喜の内省を結びつけて語る。第六通はその第五通の訂正である。親鸞聖人の年令に従って順に示すと、左記のようになる。

二十九歳 吉水入室 第三通
四十二歳 千部読誦 第五通
同 下妻の夢告 第三通
五十九歳 寛喜の内省 第五通

『子ども作品展』 作品募集

10月25日(木)から11月4日(日)まで、高山別院本堂にて「子ども作品展」を開催します。ご応募ください。

締切 10月12日(金)

書道の部
(課題)
小学一年以下「はす」
小学二年「としび」
小学三年「寺のにわ」

『子ども作品展』 作品募集

10月25日(木)から11月4日(日)まで、高山別院本堂にて「子ども作品展」を開催します。ご応募ください。

締切 10月12日(金)

書道の部
(課題)
小学一年以下「はす」
小学二年「としび」
小学三年「寺のにわ」

『子ども作品展』 作品募集

10月25日(木)から11月4日(日)まで、高山別院本堂にて「子ども作品展」を開催します。ご応募ください。

締切 10月12日(金)

書道の部
(課題)
小学一年以下「はす」
小学二年「としび」
小学三年「寺のにわ」

『子ども作品展』 作品募集

10月25日(木)から11月4日(日)まで、高山別院本堂にて「子ども作品展」を開催します。ご応募ください。

締切 10月12日(金)

書道の部
(課題)
小学一年以下「はす」
小学二年「としび」
小学三年「寺のにわ」

秋の彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

9月19日(水)～25日(火)
午後1時から勤行・法話

20日(木)	三本 昌之氏	(蓮徳寺住職)
21日(金)	中飯田正夫氏	(寶蓮寺住職)
22日(土)	大町 慶華氏	(別院 輪番)
23日(日)	竹田 雅文氏	(東等寺住職)
24日(月)	四衛 亮氏	(不遷寺住職)
25日(火)	三島 多聞氏	(真蓮寺住職)

新刊「別院探訪」

東本願寺の全国そして海外の別院
55ヶ所がこの1冊に!
これを片手に別院を訪れてみませんか。

親鸞聖人の教えを伝える中心道場として各地に建てられた別院。その設立と変遷の歴史、そこに生きた人々の歩みを掲載するとともに、年行事やアクセスマップを紹介。高山別院は97頁に収録。

価格 2,800円

<問い合わせ先 高山教務所 0577-32-0776>

情報求めています!

2015年春に高山別院で親鸞聖人750回御遠忌法要を厳修いたします。

そこで、50年前に高山別院で勤められた御遠忌はどのような法要だったのかを振り返るために当時の写真や資料、エピソードを募集します。どんなことでも結構です。ご連絡下さい。

700回御遠忌
1967(昭和42)年5月1日～5日
【問い合わせ先: 高山教務所 0577-32-0776】

絶賛発売中!

別院探訪

絶賛発売中!

別院探訪